

# 会 議 録

## 1 会議名

平成29年度第1回牧区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

平成29年度地域活動支援事業のヒアリング（公開）

## 3 開催日時

平成29年4月23日（日）午前8時45分から午後4時30分まで

## 4 開催場所

牧区総合事務所3階 301会議室

## 5 傍聴人の数

なし

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委員：丸山 進（会長）、飯田秀治、五十嵐正則、折笠弘志、佐藤祐子、清水薫、  
難波一仁、前山美智弘、渡辺喜一

・事務局：牧区総合事務所 橋詰次長、宮腰G長、風間主任、近藤主任

## 8 発言の内容（要旨）

### 【橋詰次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【丸山 進会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：難波一仁委員に依頼
- ・本日の流れについて、事務局に説明を求める。

### 【事務局】

—説明—

**【丸山 進会長】**

本日のヒアリングの審査等について質疑を求める。

**【前山 美智弘委員】**

基本審査と牧区の採択方針2項目について、1項目でも×があり、総合判定で×がついた場合は不採択ということでしょうか。個人でひとつずつ○、×を付けた場合、総合判定では×になる。最終的にカウントするのはこの総合判定で×と○がいくつかで判断するというのでしょうか。

**【事務局】**

おっしゃる通り。2つの基本審査項目と牧区の採択方針項目の2つがあり、総合判定という欄で○×をつけていく。1番か2番どちらかに×がつけば、総合判定で×になり、総合判定の○×の数、12人の委員さんの中で総合判定の○の数が6つ以上であれば採択、6つに届かなければ不採択という審査方法と理解している。

**【丸山 進会長】**

要するに両方が○の場合のみ総合判定が○になり、委員半数以上の○で採択となる。

**【前山 美智弘委員】**

前回、1回目は○×の判定のみするように言われた。採択された事業だけに採点するのではないのか。

**【丸山 進会長】**

今日はヒアリングの後、少し残っていただき、採点まで終わらせたい。

**【前山 美智弘委員】**

今年から100万円になったが、その意味を理解していない提案がある。その説明をしてもらわないといけないが、答えられないと思う。その場合、会長なり、事務局の方からなぜ今年度から100万円としたかの説明をしていただきたい。

**【丸山 進会長】**

これよりヒアリングを開始することとし、支援事業提案者の入室を求める。

**【丸山 進会長】**

提案者に対し、提案説明と委員からの質問を含めて20分を予定しているので、説明及び回答は簡潔にし、多くの事業が採択される場合などは、提案どおりの補助金額とならない場合があることを説明する。(以下、提案者全員に上記内容について、丸山進会長

が説明した後に、提案者の説明を受ける)

【丸山 進会長】

事業No. 1の提案者に説明を求める。

【提案者1】

事業No. 1「サマーナイトイルミネーション・サマーナイトマーケット開催事業」について、提案書により説明。

【丸山 進会長】

委員から質問を求める。

【丸山 進会長】

いつもツリーとして点灯している木か。剪定しなければならないのか。

【提案者1】

牧振興会の事業として実施しているクリスマスジャンボツリーは、牧の冬の風物詩になっていると自負している。どうしても木の環境整備やイルミネーションを入れる時に、剪定は必ず発生するが、費用がかなりかかる。それを持ち出す財源がないため、今回夏に新しい事業を行うことにより、地域を活性化させることと合わせ、費用の不足部分の補填もできないかとの考えも今回の事業にある。

【清水 薫委員】

事業の実施方法のうち、その他の部分に高齢者に配慮した人集め手段と書いてあるが、具体的にはどのようなことか。

【提案者1】

マイクロバスを地区内に3回くらい巡回させ、そのバスに乗っていただきながら拠点のマーケットまで来ていただこうかと考えている。

【五十嵐 正則委員】

冬場にイルミネーションを見に寄る人は、何人くらいか集計しているか。

【提案者1】

常にカウントしてはいないが、日々、車の台数など計算していくと、1か月強くらいで延千人くらいになるのではないか。

【渡辺 喜一委員】

事業収支計画の支出に、ツリーの枝等の剪定及び養生に33万6千円もの、非常に高

い額を見込んでいるが、金額の算出根拠はどのような計画によるものか。また、剪定は1回で終わるのか。

**【提案者1】**

見積もりでは、高所作業車5万8千円、木の処分3万6千円、剪定職人の手間賃・副資材ともに合わせて4万6千円、剪定手元人夫5万4千円、樹木の下環境整備2万円、堆肥入れ4万円、盛り土など諸経費5万8千円、合計で33万6千円になる計算である。剪定は1回で終わらせたいと思っている。

**【前山 美智弘委員】**

47万円は常識外とも思え、50万円の公金をもらうためではないのか。商工会議所には大型重機をお持ちの方もおられると思うので、ボランティア的な活動で枝の剪定をしてもらえば基本的にこのような費用が発生しないと思う。業者の見積りを鵜呑みにせず、もう一度精査してはどうか。

**【提案者1】**

剪定と合わせて養生の部分に費用が発生した。また、区外の電気工事業者をお願いしているが、18メートルの木に対し360度電飾をかけるには、重機、高所作業車1台では作業ができず、2台、多い時は3台で来てもらう。さらに専門技術を要するため費用を要するものと思っている。

**【前山 美智弘委員】**

結論から言うと、そこまで費用をかけるほどの事業かなと思う。提案書の表現が非常にオーバーで、このシンボルツリーにより、まちの経済が変わるようなことが書いてあり、違和感がある。本来は商工会議所が地域の皆様に日ごろの感謝を込めて、会費から地元還元するものではないのか。それを補助金事業でやることはいかがか。そのため、今言ったように剪定などは商工会議所のボランティアでやっていただきたいし、1日限りのイベントであれば、費用をかけずに、無償で住民に提供する事業ではないかと思うし、効果が薄いのではないか。

**【提案者1】**

ツリーに関しては40日くらいかけさせていただくつもりであり、ご意見も承知している。地域の商業者は店舗が減少し、消費の流出も進み厳しい状況にさらされていることから、イベントにより商業者の活性化、商業者の意識の向上を図りたい。また、地域

の買い物に行くにも不便がある中で、近くで見て買う楽しみ・心の楽しみというのを、今回提供させていただきたい。地域が夏に集まる機会はそれほど多くはないので、これを一つの機会とさせていただければと思います提案させていただきました。

**【前山 美智弘委員】**

牧商工会が本来やるべきことではないことを提案されている。牧の商工会を発展させるためにこのようなことをしたい、については公共性のあるものを伴うので、住民に還元すべくこのような費用をいただきたいという思いであれば、これはこれでありかもしれないが、本来、牧区のシンボルツリーになるようなものは NPO 牧振興会がやるべきで、もっと十分に協議してほしい。提案書では牧商工会にこじつけているようにしか見えない。

**【提案者 1】**

牧振興会とは連携をとらせていただいている。設置するにあたり電球の準備や一緒に高所作業車に上がり取り付ける作業が必要になる。その助手は商工会青年部員や商工業者がボランティアで行っている。振興会の事業に対して商工会が人的な部分、また労力の提供の部分も含めてやらせていただいているというのが実情である。また、商工会の事業の目的は、商工業の発展と合わせて地域活性化、地域の総合的な振興を担っているところであり、その部分を 2 つ合わせた中で、この事業が必要ではないかと感じている。

**【丸山 進会長】**

これから振興会との連携が必要だと思うので、もう少し太い繋がりで話し合いながら進めていただきたいと思います。

**【丸山 進会長】**

ほかに質問を求めるがなかったので、事業 No. 1 については終了する。

**【丸山 進会長】**

事業 No. 2 の提案者に説明を求める。

**【提案者 2】**

事業 No. 2 「屋号を活かし、地域を活性化させる事業」について、提案書により説明。

**【清水 薫委員】**

目的内に文化という表現がある。屋号が生まれた背景や屋号の付け方など、交流会などを行うことで、関心も高まり効果的ではないか。

**【提案者2】**

現在あるものを永代残していこうというところから始まっているため、わかった事実だけを残そうということを進めている。わからないことを調べて推察し、お知らせすることはあるが、調べることの取組はしていない。

**【丸山 進会長】**

昨年度の記録誌はできているのか。

**【提案者2】**

でき上がっている。

**【渡辺 喜一委員】**

なくなってしまった家は対象とならず、記録誌にも載らないが、かつてこんな屋号があったということを記録に残すことはできないか。

**【提案者2】**

そのような構想もあったが、資料が膨大になり過ぎ、記録誌に残すためには非常に大変な作業になる。今の5人のスタッフではそこまで手は広げられず、現存するお宅だけを対象にして仕事を進めている。

**【難波 一仁委員】**

子どもに伝えていくためにも、屋号が付いた謂れは必要ではないか。看板を作るだけでなく、それぞれの名前が付いた理由を探ることまで繋げば、より一層、よい活動になるのではなか。

**【丸山 進会長】**

看板作製の対象となるのは限界集落のみか。

**【前山 美智弘委員】**

対象は20集落もある。

**【丸山 進会長】**

苦勞されて作った看板が空き家に架かったまま、自然に崩壊していく可能性がある。製本し残すことを大前提とし、取り組んでいただきたい。

**【前山 美智弘委員】**

任意の参加であることを徹底してほしい。人権・同和問題も絡むので、あくまでも協力という形でお願いしたい。

**【提案者 2】**

昨年、看板は作ったが、写真には載せないでほしいという事例があった。要望をお聴きするなどし、今のお話に活かしていきたい。

**【丸山 進会長】**

ほかに質問を求めるがなかったので、事業No. 2については終了する。

**【丸山 進会長】**

事業No. 3の提案者に説明を求める。

**【提案者 3】**

事業No. 3「地域情報発信支援事業」について、提案書により説明。

**【清水 薫委員】**

コピーが格安にできることが地域活性化に繋がることなのか。機械を買ったことが情報提供を積極的にすることにつながらなければならない。

**【提案者 3】**

逆の発想である。地域の皆様から使い勝手のよい印刷機を積極的に活用いただきたいということが願いである。

**【佐藤 祐子委員】**

現在の利用料金を教えてほしい。

**【提案者 3】**

28年度の印刷価格は、白黒A4片面印刷で用紙持ち込みの場合2円、用紙持ち込みなしで4円、カラー用紙使用の場合は5円いただいている。A3は基本的にその倍としている。コピー機については白黒A4片面1枚10円、カラー1枚50円、A3は白黒が50円、カラー片面80円であり、単価的にはコピー機については非常に高く設定せざるを得ないという状況になっている。

**【丸山 進会長】**

地域協議会で検討し、これまでの上限50万円では単年度で事業を終わらせることができないものを、上限100万円とすることにより、毎年同じ団体が申請することを最小限に食い止め、広域的な事業にも対応できるように見直した。満額で採択されなかった場合はどうするのかお聞きしたい。

**【提案者3】**

仮に削減されたとしても、やはり地域活動支援事業と併用しながら自主財源で対応していく考えである。

**【前山 美智弘委員】**

今回、補助金100万円、自主財源170万円の割り振りをされた理由をお聴きしたい。潤沢な資金があるのだから自主財源で全額投入し、サービスを提供してはどうか。また、これほどのカラー印刷を要望されている団体と、毎年大量に印刷をする団体を、ここでお知らせいただきたい。あわせてこの機種のス펙と見積書も提出していただきたい。

**【提案者3】**

不足分の基金の活用については、今後の会員数減少も相まって、財政基盤が盤石とは言えないことから、慎重にならざるを得ない。皆様から納得いただける基金の使い方は常々考えているところである。カラー印刷の要望は、牧文化協会とその所属団体、農業生産法人、ボランティア団体など、様々な団体からである。印刷機を整備することによって、情報提供がますます広がりを見せるということが、当然私どもは期待しているところであり、また牧振興会もその機会を十分に活用しながら情報提供を進めていこうと考えている。

**【前山 美智弘委員】**

昨年度決算書では、会員収入と市からの受託事業とのバランスは会員収入がわずか5%となっている。私は95%を占める受託事業の方に変化がある方が危険であり、わずか5%に多少の狂いがあっても経営は盤石だと思う。

**【提案者3】**

市から未来永劫事業として契約してもらえるかはわからない。現実問題として13区の中には、市と契約できないところもある。よって市の契約があるから安泰だとはこの場で言うことはできない。

**【前山 美智弘委員】**

昨年この場で、運営がとても厳しく儲けにもならないという団体が来られた。高価な備品を買うことより、そのような団体が救われるような事業でなければと思った。私は振興会という組織は、やはり住民の幸せを図るという思いで立ち上がったものと思う。



最終的にサービスを受けられる方が満足し、そこに出入りする業者がそれなりに潤っているというような形にはならないものか。

**【提案者3】**

大事なお意見と受け止めている。当該団体の事業は、地域支え事業として市から委託を受け参加者から負担金をいただきながら事業を進めているもの。何か問題があれば話し合いながら改善していかなければならないし、牧区全体の活性化に向けて取り組んでいきたいと思っている。

**【前山 美智弘委員】**

昨年この場で、都市交流活動の参加者名簿の提出について要望したが、あるのか。

**【事務局】**

実績報告に添付はないが、名簿はあると思うので調べる。

**【丸山 進会長】**

ほかに質問を求めるがなかったので、事業No. 3については終了する。

**【丸山 進会長】**

事業No. 4の提案者に説明を求める。

**【提案者4】**

事業No. 4「塩の道6.1km道のり、上牧古代詞の保存と観光地域交流事業」について、提案書により説明。

**【佐藤 祐子委員】**

事業の方針や実施スケジュールに、古代詞の披露や子どもたちとの交流、勉強会などあるが、収支内容は看板やのぼり旗の作成経費のみである。次代に文化を残す、地域への還元、そういう意味での行動が予算の中では見られない。事業目的と予算が一致していないように思えるが、具体的な取組内容をお聴きしたい。

**【提案者4】**

高齢化、人口減少により集落の人口は現在47人であり、踊りを披露したりすることは難しくなっている。謡手も高齢となり、若者も練習をしているものの伝統を継承することはなかなか難しい状況である。また、イベントに飲食を伴う形を取らないのが当集落の基本である。今回、県知事からも他区でのイベントで披露してほしいとの話を頂いたので、集落の皆さんと相談したいと思っている。また、イヌワシ、オオタカの生息地

として、テレビ局や全国から人が集まる観光要所となっている。看板については非常に効果があり、観光客への説明にも使わせていただいている。

【丸山 進会長】

毎年申請がある継続事業を単年度で終わらせるべく、補助額の上限を100万円にしたという経緯はご承知されていると思う。我々の知らない取組もされており、県からのお話もあるようだが、県あるいは市の別の事業費では対応できないのか。

【提案者4】

自信を無くしかけている地域で、夢を掘り起こす必要があると思っている。たとえ少額でもよいので、お力添えをいただきたい。

【丸山 進会長】

ほかに質問を求めるがなかったので、事業No.4については終了する。

【丸山 進会長】

事業No.5の提案者に説明を求める。

【提案者5】

事業No.5「原地区集落ネットワーク圏活性化プラン策定事業」について、提案書により説明。

【渡辺 喜一委員】

プラン策定後、平成30年度から実際に事業にかかるかとあるが、それは1年間で終わるのか。

【提案者5】

平成29年度に地域おこし協力隊の申請をして、30年度からスタートする。隊員の任期は3年間であり、この間に隊員の協力を得ながら、10集落がどう生かしていくかが、このプランにしっかりうたわれると思う。それを活用しながら地道に取り組むための基本構想である。

【丸山 進会長】

昨年度はハード部分でバックホウを導入されたが、新たな別の事業なのか。

【提案者5】

昨年もご説明したと思うが、当地区では平成26年度から除雪支援事業という活動をしている。棚広に住み続けたいという独居老人を含めた高齢者世帯の除雪が発端で、行

政も手を差し伸べてくれたが、できるだけ自分たちの手でやりたいという取組が認められて、国の補助金事業への推薦を得ることができた。その際、賛同を得た白峰地区と協議会を立ち上げ、総務省の補助金を得てバックホウを購入することができた。それが原地区まもんでね事業である。それは起爆になっているが、このままでは原地区が消滅してしまう恐れがあるため、2年間で自分たちのできることをしっかり実行できるような計画を策定したい。

**【清水 薫委員】**

12人のプラン策定委員の構成はどのようになっているか。

**【提案者5】**

委員は10町内会のメンバーと総合事務所職員からの12名である。構成は会長・副会長、協議会の理事2名、棚広新田・棚広生産組合から3名、女性2名で構成されている。そこに名古屋市立大学の三浦先生、岐阜大の大学院生から加わっていただいている。また、先になるが、来年2月17日に策定プランのシンポジウムを開催する予定としているので、是非、聴取いただきたい。

**【丸山 進会長】**

このような活動は広域的に取り組んでいただきたい。補助金には限度があるので、是非、有効に活用してほしい。私の地区でも問題等の掘り起しを行ったが、その解決策がなかなか大変な問題となる。外部から講師を招くなど、具体的に地域のためになるような方法で取り組んでいただきたい。

**【丸山 進会長】**

ほかに質問を求めるがなかったので、事業No.5については終了する。

**【丸山 進会長】**

事業No.6の提案者に説明を求める。

**【提案者6】**

事業No.6「泉 棚田の稲ほたる祭事業」について、提案書により説明。

**【飯田 秀治委員】**

現市長が地域活動支援事業を立ち上げて以来、今年で8回目とのことだが、本事業が打ち切られたとした場合、来年以降どうされるのか、考えをお聴きしたい。

**【提案者6】**

もう少し続けたいという思いはある。継続する方法を集落で相談する。

**【佐藤 祐子委員】**

昨年の実績では収入・入場料も増えているにもかかわらず、ポスター、チラシの作成費用が増えているために、総額の変化はそれほどない。印刷物の作成は業者に委託しているのか。

**【提案者6】**

以前は自前で作成していたが、集客がなければ目的も達成できないことから、いかに予算を押さえながら適切な広報ができるかを考慮しながら、昨年から業者をお願いした。インターネットによる告知も検討している。

**【難波 一仁委員】**

備品購入のような提案が多い中、このような提案は好ましいと思う。今回、もし不採択になった場合、代替案は特に持っていないということによいか。

**【提案者6】**

代替案はない。

**【前山 美智弘委員】**

広報費用20万円、入場料10万円で本来なら逆転しているので、見直しが必要ではないか。祭りに関する申請は他になく、それぞれの町内、地域は自主財源で開催されているが、そのことについてどのように考えているか。

**【提案者6】**

確かに集落単独の祭りという捉え方もあるが、回を重ねるごとに地域からの期待も得て、観客が増えている実態である。昨年は初めてアンケートを行ったが、いただいた意見・感想の中には、引くに引けなくなるような内容もたくさんあった。当初は集落だけの祭りであったが、2、3回目からは外部への発信に考えを切り替えたことで、やはり苦悩もあった。まさに共通審査基準の項目1番にある公益性を重視している。

**【前山 美智弘委員】**

限られた財源の中で、だんだん規模が大きくなり、それでも続けて取り組んでいくという姿勢は非常によいことであるが、やはり地域が自主財源で収めようとする中、突出して見える。他にも補助金をつけてあげたいと思うような取組もある中、2時間ほどの

イベントに56万円は、個人的には好ましくないと感じる。少し規模を縮小し継続する、または自主財源に重きを置くことを考えてはいかがか。

**【清水 薫委員】**

昨年、地区に何度か行く機会があったが、棚田を守る姿を見させていただき、頑張りを感じた。米の販売にも力を入れて取り組まれており、やはり棚田を対外的にアピールする必要があり、よい事業だと思う。

**【提案者6】**

役員から説明させていただき、また、委員の皆さんからも本当に貴重なお話を伺い、それぞれその立場、捉え方、考え方があることを勉強させていただいた。しかし、7回という実績をいただいたこの間、私どもはわらをもつかむ思いで、毎回毎年この事業の検討を行ってきた。自分達が元気にならなければまずい、どうすれば元気になるのかということが定義の出発である。恐らく皆さんも根底には同じお気持ち、それぞれの地元に対する思い、そして町全体を考えられる思い、牧区が活気づけば上越市も活気づくという思いが脈々と流れているのではないかと思う。集落の中で、よく7回も続いたね、じゃあ10回目まで頑張ってみようかというのが今年の一つの目標としてある。私たちが活気づけば牧区が元気づき、上越市が活気づくとの思いから、苦労はあるが楽しみながら懸命に頑張っているところである。

**【丸山 進会長】**

地域、集落を核にした考え方はよいと思うが、チラシ2千枚、ポスター100枚は的を外れているのではないか。8回目に向かい伝統的に続くと、歴史を作ってしまう。その殻を破るのは大変なことで、今一度原点に戻り検討された結果だが、集落でまず自分たちが楽しむためであれば、費用をかけなくても外部にこれだけ知れ渡っていれば、当然興味ある人は来るとの発想も生じると私は思っている。しかし、守りばかりでもよくない反面もあるが、地域活動支援事業がなくなるかもしれないことを見据えながら、中山間地域の大きな活力となるイベントとして頑張っていたきたい。

**【丸山 進会長】**

ほかに質問を求めるがなかったので、事業No.6については終了する。

**【丸山 進会長】**

事業No.7の提案者に説明を求める。

**【提案者7】**

事業No.7「剣道指導拡大事業」について、提案書により説明。

**【丸山 進会長】**

現在、登録人数は何人か。

**【提案者7】**

中学生6人、小学生4人である。

**【丸山 進会長】**

昨年度も本事業で、指導者用の防具を購入されたが、耐用年数は何年くらいか。申請額は51万円だが、1セット25～26万円なのか。

**【提案者7】**

使用頻度にもよる。当会は週2回の練習であるが、3年、5年で壊れるようなものではない。体が合わなくなれば使えないが、その間は多少汚れていても使える。少子化で練習する状況も変わってきたが、今年から中学生が引き続き練習に参加することになり、小学生にとってもよい状況となることから、申請させていただいた。購入希望は3セットである。

**【飯田 秀治委員】**

牧区には青少年育成のような形で、バレーボール、クロスカントリースキー、剣道の3団体が小・中学生を対象に指導されているが、指導者の後継者問題もあるだろうと思う。東頸城のように組織を作って活動することで、よりよい活動ができるのではないかなと思うが、そのような話し合いはないのか。

**【提案者7】**

クロスカントリースキークラブの会長も長年務めてきたが、親御さんの考え方や子どもの状況が変化し、昔のやり方では誰もついて来ないだろうとの考えから、代表を交替した。剣道も女性や若い指導者に少しずつ移行している。それぞれの考え方をお聴きしながら、子どもたちに合った状況になっていけばよいと思っている。今ほどいただいたご意見のように、全部が一緒になりよい状況に向けばよいが、活動の時間が合わないなど、理想に近づくことは難しい。しかし今後、少子化が進み、子どもが3人や5人になってしまえば、運動どころではなくなるので、考えていかなければならない。

【丸山 進会長】

ほかに質問を求めるがなかったので、事業No. 7については終了する。

【丸山 進会長】

事業No. 8の提案者に説明を求める。

【提案者8】

事業No. 8「岩神城址 遊歩道整備事業」について、提案書により説明。

【清水 薫委員】

昨年の記憶では、完了に3年くらい要するとのことだったと思うが、今年度で終わるのか。

【提案者8】

安全性を保つための擬木階段の工事が終了する予定。安全性が確保された後に、標識柱の設置など皆さんに知っていただくための活動に入りたい。

【丸山 進会長】

昨年の取組後、どれくらいの人を訪れたか把握されているか。

【提案者8】

昨年8月15日の狼煙上げの会は天候不順により中止となったが、例年はお盆の里帰りの皆さんが上がってきてくださる。整備については昨年も採択いただいたが、経費等を精査する中で、できるだけ早く完了する形で工事を進めた。

【丸山 進会長】

せっかく整備されるのであれば、お盆の期間だけでなく、そこで集落内で楽しめるようなイベントを考えていただければ、より補助金が生きるのではないかと。口で言うのは容易いでも、行動に移すことは大変だと承知しているが、是非、地域で検討いただければありがたい。

【提案者8】

城址の下に約7反の大きなため池が整備されている。そこに桜や菖蒲を植えてきた。その隣には、牧区内で敷地が一番広い神社がある。今回、階段を設置することで、安全に上がることができるようになると思うので、工事が終わった段階で、話し合いを持ちながら計画していきたいと思っている。

**【前山 美智弘委員】**

昨年度の実績報告書に、事業評価で予想以上の成果が得られたとあるが、何か。

**【提案者 8】**

作業ボランティアに若い人たちが参加してくれたこと。また、擬木を重ねる本数を調整することで、高齢者に配慮した階段の高さや段数を伸ばすことができた。結果、当初3年計画の予定が2年で終了することができることになった。

**【丸山 進会長】**

ほかに質問を求めるがなかったので、事業No. 8については終了する。

**【丸山 進会長】**

事業No. 9の提案者に説明を求める。

**【提案者 9】**

事業No. 9「クロスカントリースキートレーニング及び大会環境増強事業」について、提案書により説明。

**【渡辺 喜一委員】**

昨年購入されたローラスキーと、今年のスケーティング用ローラスキーは大分違いがあるのか。

**【提案者 9】**

スキーにストッパーが付いていないので、スピードスケートのスケーティングのような動きが求められ、スピードもはるかにこちらの方が出る。ということはその分、スキーをコントロールする力が必要となり、下りにおいてもスピードが出ること。そして、何よりもカーブを乗りこなす技術が高められる。成績だけでいえば中学生では長野県勢が非常に強い。それは長野県勢がいち早く、小学生のころからスケーティング走法というのを取り入れて、大会もスケーティングの大会が多い。新潟県は小学生にはスケーティングの動作が身体によくはないのではないか、骨格に合わないのではないかとの理由から、ためらった部分があり、その10年の差が全国大会ではっきり結果が出ている。このトレーニングでスケーティング動作をしっかりとやることによって、クラシカルなレースにおいても下りやカービングはうまくなるということである。現に、数年前に行った女子の全国大会では、長野県の選手はどんどん押して下りに突っ込んで行ったが、新潟県の選手は残念ながら下りの手前でブレーキをかけていた。これが今の新潟県



と長野県の差なのかなと思った。つまりスケートディングのローラーは立っているだけで精いっぱい状況であるが、これを乗り越えることによってバランス能力もスキーの技術も鍛えられるということである。

**【清水 薫委員】**

大会の前後も含め、コーチは何人いてどのようにこなしているのか。

**【提案者9】**

常時のコーチは私を含め2人いる。その他に7人くらいの私たちが教え、青春を共にした世代が、手伝いたいと言って戻ってきてくれた。その点では少しずつだが、後継者も育っているのではないかと考えている。

**【飯田 秀治委員】**

子どもたちの育成をしていることが目に見えるようにわかる。反面、これだけの費用が必要とされる中、この地域活動支援事業が打ち切られた場合、スキーに携わる者または保護者が負担することになるのか、どのように考えるか。

**【提案者9】**

支援事業を使つてのローラー整備は本当によい制度であり、そのことで成果を出さなければならぬとも思っている。成果が入部の人数と賞状の枚数に現れ、少し安心している。市長公約である地域活動支援事業がいつ終わるかわからないことも考えており、今回もローラースキー購入について検討したが、今回購入すれば最低限数揃い、一つの目途がつくという状況が見えたことから申請させていただいた。私の大人用ローラーは約6万円、ジュニア用は4万円、私の娘が履いている大人用モデルは10万円に達するレベルまで来ている。スキーはお金がかかるという部分が先行して、一時期遠ざかる保護者もいた。スキーは消耗品でもあり、私の代になり、兄弟や卒業した人から譲り受けるという関係がようやくできてきた。ローラースキーは高価であり、スキー靴とストックは個人に応じた物であり、兼用できない。その負担を減らすためにも、夏場の約9か月にも及ぶシーズンの練習にはこのローラースキーが必要であり、共有して使いたいと思っている。

**【丸山 進会長】**

それぞれその学年、体力によって使い分けされると思うが、22人のメンバー全員分にはまだ足りないが、去年以前の物もあるのか。また、今年度で一区切りと理解してよ

いか。

**【提案者 9】**

スキークラブで保有していたものが若干あった。私のように買う保護者もいるが、負担は厳しいと思っている。我々も全て補助金に頼ることは虫がよすぎると思っていたので、牧小学校が3年生以上でリレーを組むに当たり、3年生以上は少なからずスケートイング動作がマスターできるような練習環境を作りたいとの思いから、何年かの計画を見込んだ上で、必要最低限数を5台として提出させていただいた。

**【丸山 進会長】**

ほかに質問を求めるがなかったので、事業No. 9については終了する。

**【丸山 進会長】**

事業No. 10の提案者に説明を求める。

**【提案者 10】**

事業No. 10『うたって・おどって・みて』楽しい暮らしを応援事業』について、提案書により説明。

**【難波 一仁委員】**

牧文化協会に属する団体数と関係者数をお聴きしたい。

**【提案者 10】**

3月時点では15団体、165人である。

**【渡辺 喜一委員】**

事業内容に牧村民歌を演奏してもらい、音頭調の振り付けをするとあるが、新しい振り付けをするのか。

**【提案者 10】**

現在の振り付けは、レクダンス風でその場で踊るようなものであり、盆踊りでなかなか皆さんに参加していただくことができない。せっかく牧村民歌を継承するための活動をしているので、みんなで輪になって踊れるようなものにしたいと考え、牧区在住の方が一員であるブリリアント・ブラス・アンサンブルに、曲間に間奏を入れた編曲、演奏をお願いした。その後、文化協会の音楽関係団体が集まり、曲に合わせて参加型の振り付けをしようと思っている。これまでの反省も踏まえ、踊りに加わってくれる方が増えることで、牧村民歌が長く歌い継がれていくものと思っている。

**【飯田 秀治委員】**

私の集落でも毎年盆踊をやるが、牧村民歌は知っていても、一般の方は踊れないため、さっと終わってしまう。牧村民歌の保存は大賛成であり、みんなで踊れるような振り付けをすれば曲も残るし、歳を重ねても歌えるのは非常によいことだと思う。11月3日の初披露を楽しみにしている。

**【提案者10】**

曲間に間奏を入れることで、音頭調の振り付けが可能になると思う。どんな小さい集落に出かけても、興に乗ってくると一緒に踊りたくなるが、文化協会のメインの踊りが牧村民歌でも、レクダンス調なのでなじみが薄かった。地域の皆さんからの声もあり、輪になって踊れる振り付けの必要性を感じた。私たちの専門分野でない部分もたくさんあることから、猶予を持たせた申請をさせていただいた。

**【佐藤 祐子委員】**

今年の牧区新年会で、尺八で牧村民歌の演奏があったが、場内が一体化し歌われた。今もなお、これほど村民歌を歌い繋いでいる区は他にはないと思うので、是非、よい方向へ仕向けていただきたいと思っている。メロディは変わらず、間奏とリズムを音頭調に編曲するだけか。

**【提案者10】**

現在のピアノ伴奏が、間奏を入れての吹奏楽の合同演奏になる。できるだけ大勢の方から合奏に参加していただきたい。

**【難波 一仁委員】**

少し話は違うかもしれないが、牧中学校のよさこいは区内のイベントや町内会への出前もされているが、学校の教育の一貫としての取組は、指導者が変わると方向も変わるかもしれない。失礼な言い方をするが、文化協会にはご年配の方が多いが、多方面から色々な形で参加できるようになればよいと思っている。

**【提案者10】**

よさこいを一緒に踊るのは難しいが、せっかくいろいろな人が参加して作るからには、老いも若きも踊りやすいものにしたい。高齢化は否定できないし、文化協会には若い方でも参加いただけるが、時間に余裕がない方はやはり入れず、どうしても高齢者が多くなる。盆踊調にすれば若い方も高齢者も一緒に踊れるので、今回は若い年齢層の方が中

心となっている団体から参加いただき、振り付けを考えようと思っている。

【丸山 進会長】

ほかに質問を求めるがなかったので、事業No. 10については終了する。

【丸山 進会長】

事業No. 11の提案者に説明を求める。

【提案者11】

事業No. 11「地域の活性化促進事業」について、提案書により説明。

【丸山 進会長】

本来、地域協議会も地区協議会も、牧区を網羅し活動されているNPO牧振興会の会員という位置づけと考えるとよいと思う。その流れで、今後、牧振興会と色々な組織との連携が必要になってくると思う。連絡会議は持ち回りなので、次の原地区にもこのことを申し送りしていただければと思う。

【提案者11】

承知した。ただ、この地域活動支援事業の事務については、連絡会議とは別に、牧区、白峰地区、沖見地区の3地区でお願いしたものなので、この協議会の話し合いの中で私どもが当番となったことから、1年間この体制で進めさせていただくこととしたい。

【丸山 進会長】

灯の回廊は雪国の山間地において大変重要な位置を占めるイベントであると思う。私たちがのみで継続することは困難なので、あらゆる団体を通じながらやっていければと思っている。

【提案者11】

このイベントは年々盛大になって、牧区のみでなく上越市に広がりを見せている。冬の一大イベントとして、華やかに盛大に牧の灯の回廊を位置づけしながら、地域活性化と発展のために進めたいとの思いから要望させていただいた。

【丸山 進会長】

ほかに質問を求めるがなかったので、事業No. 11については終了する。

【丸山 進会長】

引き続き、事務局から採択・不採択の結果を発表する。

## 【事務局】

共通審査の結果、5番の「塩の道61km道のり、上牧古代詩の保存と観光地域交流事業」が総合判定では×になった。これ以外の事業について第2回の審査票に点数を書いていただきたい。

## 【丸山 進会長】

この結果は26日の協議会で公表になる。

## 【丸山 進会長】

- ・会議の閉会を宣言

## 9 問合せ先

牧区総合事務所総務・地域振興グループ TEL：025-533-5141（内線147）

E-mail：[maki-ku@city.joetsu.lg.jp](mailto:maki-ku@city.joetsu.lg.jp)

## 10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。